



ITC ひろしまクラブ・安芸クラブ合同例会

教育的ディベート資料

論題：「企業は女性管理職採用にクォータ制を取り入れるべきである。」

教育		: 成定 正子 (ひろしまクラブ)
モデレーター		: 前田 利子 (ひろしまクラブ)
ディベーター	肯定側 (安芸クラブ)	: 福田加代子・早田 典子・青木 和恵
	否定側 (ひろしまクラブ)	: 松野 千景・藤井 啓子・米門 公子

日時：2014年12月12日（金）12：00～15：30

場所：広島アンデルセン4F スカンジナビアホール

参考文献：中沢美依 著「教育的ディベート授業入門」

文責：ひろしまクラブ 前田 利子 成定 正子

ディベート(Debate)

1. ディベート種類

- ①実社会ディベート 議会・法廷・企業など、勝敗が即社会に影響を与える。
- ②教育的ディベート 一種のゲームで勝敗が社会に影響を与えない。
 - ・コミュニケーション技能を習得する。
 - ・「論題」に含まれる問題点は何なのかをよく考え、議論を通して認識を深める。

2. 教育的ディベートの目的

- ①ゲームとして楽しみながらコミュニケーションに必要な能力や技術を身につける。

ディベートは個人の考えではなく、与えられた立場で議論するため感情的にならず、いろいろな能力を磨くことができる。
- ②情報の収集と処理能力

社会の大切な問題に関して適切な判断を下すには、どんな情報を得る必要があり、それをどう収集すればよいかを考えることを学ぶ。情報の溢れた現在において、情報に振り回されるのではなく自分に必要な質の高い情報を選び取る技能の習得を目指す。

情報に基づいた主張は、水掛け論を脱し、より確信度の高い議論ができる。
- ③論理的な思考力

相手の主張に対して批判的思考力をもって聴き、建設的な思考力をもって反論できるように、「なぜ？」
「なぜならば」「こうしたら」といったかみ合った議論の積み重ねが論理的思考力の育成に繋がる。
- ④考えをまとめる力

準備段階でも試合でも相手の主張を聴いて、与えられた短い時間の中で説得するためにはどうすればという作業を繰り返し行うことで議論から外れないで考えを纏める力が養われる。
- ⑤人前で話す力

個性を生かして自己を表現するにふさわしいスタイルを体験の中から作り上げていく。最も自分にふさわしい「話し方」を作り上げていく貴重な訓練の場である。

また、ディベートはすべて説得のスピーチである。論理的に話すことと同時に、説得するためのノンバーバル面も学ぶ。

ディベートはジャッジが聴き取って初めて主張したことになるので、聴き手が理解するように話す訓練になる。
- ⑥対話する姿勢と技能、マナーを大切に

今、社会でも個人でも多くの問題を抱え乗り越えていかなければならない。そのためには「語り合い」を通してお互いの意見と知恵を出し合って解決策を編み出していくことが求められている。

ディベートでは、常に意見が対立する状況の中で、自分の気持ちや思考をコントロールしながら議論を進めていかなければならないため、どんな状況の下でも建設的に「語り合い」を進めようとする姿勢やそれに必要なコミュニケーション技能を養うことが出来る。

特に尋問は唯一ディベーター同志が質疑応答し、反論されるので、感情的にならないこと、誹謗しないなどマナーが大切である。肯定側・否定側どちらの立場も問題に対しては前向きに「話し合い」をしようとする姿勢では一致している。

教育的ディベートは立場で主張するため、自分の意見を崩されるということではないので、キチンと議論をする訓練には適している。

3. 教育的ディベートの基本構造

1. ディベートの4条件

①一つのテーマ（論題）を論じる

テーマの本筋から外れないことが議論することで一番大切なことである。

②肯定側・否定側の二つに分かれて論じる

肯定・否定の両面から議論することで認識に広がり生まれ、問題の本質を見極める力が身に付く。

③ルールに基づいて論じる

肯定側・否定側に平等な発言の機会を与える。

④第三者が判定を下す

判定者は主張の良し悪し、または自分の考えに沿うか否かではなく、肯定・否定どちらがより説得力のある議論を展開したかによって勝敗を決める。

フローシートに聴き取ったこと記入し客観的に判定することが大切である。

4. 教育的ディベートの流れ

①論題設定

- ・参加者や聴衆の興味を引くトピックを選ぶ
- ・個人的な話題は避ける
- ・議論が肯定側・否定側にかたよらないこと
- ・中心テーマは一つであること
- ・議論の焦点を明確にする
- ・論題は肯定文にする

②準備

・論題分析

論題に含まれる問題点は何か。

その問題はどうすれば解決できるのか。

・言葉の定義・・・肯定側の権利と義務

議論が噛み合う為に論題に書かれた言葉の意味を明確にする。

・プラン提示・・・肯定側の権利と義務

論題分析で出た問題点を解決するための具体的方法

5W・・・いつ・どこで・だれが・なにを・なぜ

2H・・・どのように・資金は

・具体的準備

肯定側が提示した言葉の定義とプランについて否定側は原則認める。

ブレストシート作成

論題をプランに沿って実行した時に思い浮かぶメリット・デメリットをポストイットに書く。

誰にとってのメリット・デメリットなのかを考えながら書く。

KJ法（情報をカード化し、同じ系統のものでグループ化する）で纏める。

リンクマップ作成（別紙参照）

議論の全体像をあらわす。

KJ法で纏められたブレストシートを誰にとってか？を考え主張の筋をつくる。

発生過程から重要性に至るまで時系列で並べ、その流れ（リンク↓）に無理はないか、飛躍がないかを検証する。リンクマップには正解がないので、ディベーターの思いのまま何度で

も作り変える。他の意見にヒッチハイクしながら広げていく。柔軟に考える訓練になる。
資料の探し方

リンク↓(流れ)を証明するエビデンスかどうかを考える。エビデンスの信用性も重視する
主張にエビデンスの裏付けをすることで、説得力のある客観的な議論ができる。

③試合

- ・フォーマットに沿って実施する

フォーマット (例)	
肯定側立論	5分
否定側から肯定側へ質疑	4分
否定側立論	5分
肯定側から否定側へ質疑	4分
作戦タイム	2分
否定側反駁	4分
肯定側反駁	4分
作戦タイム	2分
否定側結論	5分
肯定側結論	5分

- ・肯定側の立論から始まり肯定側結論で終わる。
- ・それぞれのスピーチは判定者に向かって説得力を持ってする。
- ・試合はマナーを大切に、特に尋問は唯一ディベーターが対局するので、感情的にならないように。

④判定

- ・判定は判定者の考えに沿うか否か、また主張の良し悪しではない。

フローシートに肯定・否定の立論で述べられた主張を記入し、お互いの主張がどのように尋問を踏まえ反駁されたか、結論で再反駁されたかを検証する。

反駁されていない主張が通ったことになる。双方の主張がどの程度残っているかで勝敗を決定する。判定はフローシートに記載された(聴き取れた)ことを基本に判定する。

参考文献：中沢美依 著「教育的ディベート授業入門」

文責：ひろしまクラブ 前田 利子 成定 正子

.....

コミュニケーション技能というのは、スポーツの技能のように、体験の積み重ねの中でしか学ぶことの出来ない、
言わば「体験知」なのである。

教育的ディベートは、自分の頭で考えることのできる人間を育て、様々な問題について、互いの意見を持ち寄り、
議論する「語り合いの場」の提供を目的とする。

教育的ディベートは、勝敗にこだわらず、参加者が楽しみながら学べること、参加者の自発的な学習意欲や向上
心を引き出すことを最優先しなければならない

中沢美依先生「教育的ディベート授業入門」より

リンクマップの作成

1. リンクマップ

議論の全体像を図式化してあらわすもの。正解はないので、意見が出れば足していく。

手順

1. まず、論題「～すべきである。」をプランに沿って実行した時起こるメリット・デメリットを思いつくまま短時間で書き出す。どんな奇抜なアイデアもOK・・・ブレストシート
2. カードには1枚1件：キーワードだけ書く
3. 書かれたカードを全部集め、JK法で同じものを集める
4. 誰にとっての（女性にとって）・・・何にとっての（社会にとって）など・・・考え筋を分ける
5. それぞれの筋を過去、現在、未来を考え、時系列に上から下に並べる。
6. お互いの筋のかかわり合いも線でつないでいく↓・・・リンクする。
7. リンク↓の間を埋める・・・なぜ？をかんがえ、過程に理論が飛んでいないか・ブレストシートはこの段階でも増やしていく
8. 先をのぼす（リンクする）・・・するとどうなるの？
9. →のところに批判を書く・・・本当にそう言えるの？
10. 必要なエビデンスはなに？
11. どの筋のメリット・デメリットを主張するか？・・・説得力があるか？でメリット・デメリットを選ぶ

リンクマップの流れ

発生過程

論題からメリットまで・・・どのようなプロセスでそのメリットが生まれるか？

- ① プランから出発
- ② 因果関係を順序よく並べる
- ③ 一番説得力のあるメリットまたはデメリットのカードまでの過程を発生過程という

重要過程（深刻過程）

メリット（デメリット）に選んだカード以降に生まれる大きなメリット（デメリット）常に反駁されることを念頭においてリンクマップを作成する。

この段階では肯定側・否定側両方のマップを作成する・・・両方の立場を考えることで多面的な考え方ができ、論題に含まれる問題点を多角的な視野で考えることができる

例 論題「企業は女性管理職の採用にクォータ制を取り入れるべきである。」 肯定側

